

# 第 1回 宇佐神宮の構成と特徴

- ・宇佐神宮の全体概要
- ・宇佐神宮構成
- ・宇佐神宮歴史年表

中心出典:「宇佐神宮」(宇佐神宮庁)

「なぜ八幡神社が日本で一番多いのか」 島田裕巳著(幻冬舎)

「mansongeのニッポン民俗学」小論 柳田国男著(2005.02.20)

「宇佐神宮 神社紀行」(学研)

「古事記」(竹田恒泰著、学研)、「日本書紀」(宇治谷 孟著、講談社)他

# 1. 宇佐神宮の全体概要

参照資料1-1

## (1) 宇佐神宮の位置づけ

①八幡神社としては、鎌倉の鶴岡八幡宮、京都の石清水八幡宮、博多の筥崎宮、大分の宇佐神宮が著名である。総本宮は大分の宇佐神宮である。

八幡信仰に関わる神社は、神社庁管轄の7万9335社(平成2年調査)の中で最大の信仰を誇り、7,817社に上る。

八幡神を祀る神社は、八幡神社、八幡宮、若宮神社などと呼ばれる。

②参拝は宇佐神宮では二礼四拍手一拝が古儀(出雲大社と同じ)である。

遷宮は、鎌倉末期まで33年毎の式年造宮であったが、臨時造営のみに。(資金の調達が不可能に)。

(注)臨時造営とは火災や異常時に行う遷宮。仮殿を設置するので仮殿遷宮ともいう。

参照資料1-2

## (2) 祭神(延喜式): 八幡大神(菅田別命(ほんだわけのみこと): 応神天皇)、比売大神(ひめおおかみ)、神功皇后

①一之御殿(神亀2年:725年)の御祭神である八幡大神は応神天皇のご神霊で、571年(欽明天皇の時代)に初めて宇佐の地(菱形池)にご示顯(じげん)になり、

宇佐八幡宮弥勒寺縁起(844年)によれば、大御神が辛嶋勝波豆米(からしまのすぐりはつめ)に、『吾は今、小山田社<sup>注</sup>に座しているが、其の地が狭隘のため、菱形の小椋山に移ろうと思う』と託宣した。(注)御許山から伸びる尾根の突端丘陵地

是により、聖武天皇・神亀2年(725)正月、菱形小椋山を伐り拓いて大御神宮を造立して遷し奉り、波豆米(はとめ)を以て禰宜(ねぎ)をした」とあり、神宮ではこれを以て神社創建としている。

②二之御殿(天平5年:733年)の御祭神である比売大神は八幡さまが現われる以前の古い神、地主神として祀られ崇敬されてきました。

## ②二之御殿(つづき)

参照資料1-1

\* 宇佐の地は畿内や出雲と同様に早くから開けたところで、神代に比売大神<sup>注</sup>が宇佐嶋(宇佐洲(宇佐国御許山)と考えられる)にご降臨されたと『日本書紀』に記されている。

(注)比売大神は、宗像三女神(多岐津姫命・市杵嶋姫命・多紀理姫命)とされている。

参照資料1-3

\* 八幡神が祀られた6年後の天平3年(731年)に神託により二之御殿が造立され、宇佐の国造は、比売大神をお祀りした。

参照資料1-2

## ③三之御殿(天平5年:733年)は御祭神である応神天皇の御母、神功皇后をお祀りしている。

神託(八幡神のお告げ)により、弘仁14年(823年)に建立された。

現在、神功皇后は母神として神人(じにん)交歓<sup>注</sup>、安産、教育等の守護する神として威徳。

(注)神職による舞や唱えによる神とのやり取り

## 2. 宇佐神宮構成

神宮構成は上宮(じょうぐう)と下宮(げぐう)から成る。

### (1) 上宮本殿(玉垣内)

参照資料 1-4

参照資料 I-2

#### ① 建築様式: 宇佐神宮の建築様式は八幡造。

この八幡造は、二棟の切妻造平入の建物が前後に接続した形で、両殿の間に一間の相の間(馬道:めどう)がつき、その上の両軒に接するところに大きな金の雨樋(あまどい)が渡される。桧皮葺(ひはだぶき)で白壁朱漆塗柱の華麗な建物が、横一列に並ぶ。

#### ② 本殿の構成

参照資料 1-5

◆ 楼門、申殿(拝殿のこと)、本殿、脇殿から成る。

◆ 本殿: 奥殿を「内院(ないいん)」・前殿を「外院(げいん)」

・内院には御帳台があり、外院には御椅子が置かれ、いずれも御神座。

御帳台は神様の夜のご座所であり、御椅子は昼のご座所と考えられている。

・神様が昼は前殿、夜は奥殿に移動することが八幡造の特徴。

#### ③ 本殿祭神の脇殿

参照資料 1-6

脇殿とは、正殿に控える神で日常の世話をする神を祭る。

◆ 一之御殿(応神天皇(誉田別命(ほんだわけのみこと))、脇殿: 春日神社

春日神社: 天児屋根命が祭神。一之殿の脇殿。磯の童注(わらべ)が神功皇后を助けた由来で、この童は筑前では志賀島明神の安曇磯良(あずみいそら)、大和では春日大明神(天児屋根命)。

参照資料 1-8

◆ 二之御殿(比売大神)、脇殿: 北辰神社

北辰神社: 造化三神を祀る。上宮の地主神でもある。二之殿の脇殿で西中門内に鎮座。八幡造のもととなったのは、二之御殿の脇殿・北辰神社の建物ではないかといわれている。

◆ 三之御殿(神功皇后)、脇殿: 住吉神社

住吉神社: 住吉大神が祭神。三之殿の脇殿。

## (2) 下宮(げぐう)

①**創建**: 嵯峨天皇の弘仁年間(810年代)勅願によって創建され、上宮の御分神を  
ご鎮祭<sup>注</sup>になったことがきっかけで、八幡大神・比売大神・神功皇后は上下御両宮の  
ご鎮座となる。以降、「下宮参らにゃ片参り」と云われる。

(注) 諸神をまつり、その土地をしずめ固めるための祭儀

\* 下宮の八幡大神は、御饌(みけ)を司るとともに、農業や一般産業の発展、充実を  
お守りになるご神威を発揮されます。

\* “一処二祭場”という神道の神社形式がある。

・同じ場所あるいはすこし離れた場所に同じような社が2ヶ所祀られていることを指す。

・これら二つの神殿(祭場)は生と死・聖と俗・男と女・天と地などを表し、2神殿をもつことで  
そこでの祭祀が完成するという。

・一処二祭場を持つ神社は、伊勢神宮、諏訪神宮、上賀茂・下鴨などがある。

②**役割**: 下宮の八幡大神は、御饌(みけ)を司るとともに、農業や一般産業の発展、充実を  
お守りになるご神威を発揮する。と言われる。

古くから日常の祭祀には、とくに国民一般の祈願や報賽<sup>注</sup>(ほうさい)が行われてきた。

(注) 祈願が成就したお礼に神仏に参拝するお礼参り。

③**建築様式**: 上宮と比べ小さいながらも同じ八幡造。

## (3) 境内内の摂社・末社の神⇒ 参照資料1-7、8

### 3. 宇佐神宮の歴史⇒ 参照資料1－9

社伝によれば、宇佐神宮の歴史は4つのエポックによって、八幡神が国家神へ変換していく経緯が見て取れる。

- ①宇佐への三女神の降臨
- ②医術による朝廷への貢献(和暦蘭「+」印)
- ③八幡神の顕現と神宮の拡大(「➡」印)
- ④八幡神の神託: 東大寺大仏の建立、和氣清麻呂への神託(和暦欄「\*」印)